

C—64 長針短針による運針の速度および質の比較 研究 (第3報)

東京家政大 ○齋藤 トシ
本郷 美枝

1. 第1報, 第2報において, 長針および短針による運針の量と質の一部について種々の測定を行なったが, 今回は各布地における針目の大きさの斉一度と, ゆがみについて測定を試みた結果を報告する。

2. 資料は前回までの実験に使用した木綿の薄地, 厚地, 絹の3種の布地の各51名のうちから無差別抽出により10名を選んだ。斉一度は, 各布とも縫始めから20針の針目の長さの平均値を求め, さらに平均誤差を求め, ゆがみについては, 縫始めの針目から50針までの線と布端とが平行になるように糸を引き, その糸より上下にはずれた針目を数えた。

3. 斉一度は, 第1実験においては, 布地による明確な差異はみられない。また針の長短による傾向もみられない。第2実験(第1実験の約2カ月後に同一条件でおこなった)においては, 布地による斉一度の差異はみられないが, 長針より短針の方がよくなっている。ゆがみについては第1実験のいずれの布地においても, 短針より長針の方がゆがみは大きい。ただし, 短針の場合は上方より下方にゆがむ傾向が強い。第2実験は, 全体的に見てゆがみは少なく, また, 上ゆがみと下ゆがみの差もきわめて小さく, 第1実験同様の傾向は認められない。

従って, 斉一度, ゆがみ共に運針の練習により, 長針より短針の方が効果的であることがわかる。なお, 統計的有意差の検定の結果は当日発表する。